

目 次

第 I 部 序論.....	1
第 1 章 可能表現とは何か.....	3
1 可能表現に関する研究.....	3
1.1 小矢野哲夫 (1979) (1980) (1982)	4
1.2 寺村秀夫 (1982)	6
1.3 奥田靖雄 (1986)	8
1.4 森田良行 (1989)	11
1.5 井島正博 (1991)	13
1.6 渋谷勝己 (1993)	16
1.7 尾上圭介(1998a)(1998b)(1999).....	18
1.8 川村 大 (2004) (2012)	20
2 本書における可能表現の捉え方と問題提起.....	21
第 2 章 本書の目的・方法及び概要.....	29
1 本書の目的.....	29
2 本書の方法と資料.....	31
3 本書の構成.....	33
第 II 部 典型的可能表現をめぐって.....	37
第 3 章 実現系の可能表現の意味－否定形を中心に－.	39
1 はじめに.....	39
2 先行研究と問題点.....	41
3 実現可能文の否定形の意味.....	44

3.1	意味パターン①－〈意図的行為の不成立〉.....	44
3.2	意味パターン② －〈心理的拒否による事象の不成立〉.....	46
3.3	意味パターン③－〈帰結的な事象の不成立〉..	49
4	実現可能文の否定形と自発表現との関わり	51
5	おわりに.....	55
第4章 「可能動詞+ている」の意味.....		59
1	はじめに.....	59
2	先行研究.....	62
3	「可能動詞+ている」の意味.....	64
3.1	「可能動詞+ている」 －行為の実現が可能な場合.....	64
3.1.1	[実現した動作の継続]	65
3.1.2	[動作実現の反復]	66
3.1.3	[動作パーフェクト]	66
3.1.4	[状態パーフェクト].....	67
3.2	「可能動詞+ていない」 －行為の実現が不可能な場合.....	68
3.2.1	[一時的な不可能]	68
3.2.2	[行為の未実現]	68
3.2.3	[行為結果の未達成]	70
4	潜在可能文と実現可能文との関わりについて....	71
4.1	一回的行為を表す場合.....	71
4.1.1	[実現した動作の継続]	71
4.1.2	[動作パーフェクト]	72
4.1.3	[状態パーフェクト]	72
4.1.4	[行為の未実現]	73
4.1.5	[行為結果の未達成]	74
4.2	多回的行為を表す場合.....	74

4. 2. 1	[動作実現の反復]	74
4. 2. 2	[一時的な不可能]	74
4. 2. 3	[行為結果の未達成]	75
5	まとめ.....	75
6	おわりに.....	78
 第 5 章 可能表現の表す〈可能〉・〈不可能〉の条件....		81
1	はじめに.....	81
2	先行研究.....	84
3	可能表現の表す〈可能〉・〈不可能〉の条件.....	91
3. 1	行為者主体と可能の条件との関係について..	91
3. 1. 1	可能の条件が行為者自身にある場合....	91
3. 1. 2	可能の条件が行為者を取り囲む環境に.. ある場合.....	97
3. 2	行為者以外の主体と可能の条件との関係につ いて.....	100
3. 2. 1	可能の条件が主体自身にある場合.....	100
3. 2. 2	可能の条件が主体を取り囲む環境にある 場合.....	104
4	〈可能〉・〈不可能〉の条件の相互関係.....	106
5	おわりに.....	109
 第 III 部 周辺的可能表現をめぐって.....		111
 第 6 章 「ーてもいい」の意味機能		
ー未実現の事象を中心にー		113
1	はじめに.....	113
2	行為を表す「ーてもいい」の意味機能.....	116
2. 1	行為者が話し手の場合.....	116

2.1.1 平叙文で表す「－てもいい」	117
2.1.2 疑問文で表す「－てもいい」	120
2.2 行為者が聞き手の場合.....	122
2.2.1 平叙文で表す「－てもいい」	122
2.2.2 疑問文で表す「－てもいい」	124
2.3 行為者が話し手と聞き手以外の場合.....	125
2.3.1 平叙文で表す「－てもいい」	125
2.3.2 疑問文で表す「－てもいい」	126
2.4 行為者が不特定の場合.....	127
2.4.1 平叙文で表す「－てもいい」	127
2.4.2 疑問文で表す「－てもいい」	128
3 状態を表す「－てもいい」の意味機能.....	129
3.1 平叙文で表す「－てもいい」	129
3.2 疑問文で表す「－てもいい」	130
4 「－てもいい」と可能表現との関わり.....	131
5 おわりに.....	136

第7章 「－てはいけない」の意味機能

－未実現の事象を中心には－..... 139

1 はじめに.....	139
2 行為を表す「－てはいけない」の意味機能.....	145
2.1 行為者が話し手の場合.....	145
2.2 行為者が聞き手の場合.....	151
2.3 行為者が話し手と聞き手以外の場合.....	155
3 状態を表す「－てはいけない」の意味機能.....	159
4 「－てはいけない」と可能表現との関わり.....	162
5 おわりに.....	167

第 8 章 「動詞 + わけにはいかない」の意味機能.....	171
1 はじめに.....	171
2 先行研究.....	173
3 「動詞 + わけにはいかない」の意味機能.....	176
3.1 「動詞肯定形 + わけにはいかない」	176
3.1.1 外的要因による〈状況不可能〉の場合...	176
3.1.2 主体の強い意志による〈意図的不可能〉 －外的要因から内的要因へ.....	178
3.1.3 内的要因による〈能力不可能〉・ 〈心情不可能〉の場合.....	181
3.2 「動詞否定形 + わけにはいかない」	183
3.2.1 外的要因による〈状況不可能〉の場合....	183
3.2.2 主体の強い意志による〈意図的不可能〉 －外的要因から内的要因へ.....	184
3.2.3 内的要因による〈自発的不可能〉の場合	188
3.3 まとめ.....	190
4 「動詞 + わけにはいかない」と可能表現との関わり	191
5 おわりに.....	195
 第 IV 部 結論.....	197
 第 9 章 本書のまとめ.....	199
 第 10 章 結びと今後の展望.....	211

参考文献.....	219
用例出典.....	225
初出及び国家科学委員会専題研究助成金一覧.....	227
あとがき.....	229